

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

導水路はいらない！愛知の会

会報 1 2 号

2011 年 1 1 月 5 日
名古屋市瑞穂区内浜町 1-15 加藤伸久方
TEL / FAX 052-811-8069
URL: <http://www.dousuiro-aichi.org/>

多くの県民が苦闘する今こそ、県知事らは勇気を持って「導水路」中止の決断を！

10 / 19 (水) 住民訴訟・第 12 回口頭弁論が開かれる

第 12 回口頭弁論当日は、原告の一人・宮崎さん曰く“ピンカートーン”の日本晴れです。



約 30 人が参加の事前集会では、「新川水害」池谷さんより、最高裁での進展なき現況。「市民学習会」武藤さんより、市民による 12・10 よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！。「徳山ダムの会」近藤さんより、岐阜県知事・議会の反住民動向、などが報告交流されました。

法廷では、原告・山田忠善さんが、52 年前の伊勢湾台風による悲惨な原体験と知多半島の付け根・大府市に居住の生活体験に照らして、ムダな「導水路」事業は中止し、東日本大震災の復興に役立てること、愛知県から買う水道料金の引き下げに努力すること、などを力強く意見陳述（P2～3 収録）しました。



被告ら釈明は“不誠実！”回答、原告側は「求釈明書」を再提出



報告集会では、在間弁護団長が書面のやり取りを概要解説、弁護団と参加者らが活発に意見交流、大いに認識を深めました。

概要内容は、< 原告側・第 10 準備書面は、原告が主張の「違法性判断の枠組み」「原因行為についての具体的な事実関係」を適示、集大成。一方、被告側・準備書面 10 は、前回・求釈明（第 9 準備書面）へ 不十分回答につき、求釈明書（3 項目が骨子）を再提出 > でした。

木曽川水系河川整備基本方針の成戸 50m³/s は何のために、何を目的として定めたか。同上「整備計画」が、適法策定との具体的根拠は単に河川法が定める手続きを経たことか。同上「基本方針」及び「整備計画」が、内容において適法策定されたことを明らかにする立証は行う意思はないと見てよい。

- | | |
|-----------|---|
| P 1 ~ 3 | 10 / 19 「導水路」裁判・第 12 回口頭弁論が開かれる！（& 原告・山田さんの意見陳述書） |
| P 4 | 投 稿 * 継続と団結こそ力、石木ダムはいらない！全国集会 …… 近藤ゆり子氏 |
| P 5 | 「導水路」裁判の屋台骨を支える原告弁護団メンバー 4 氏のご紹介（下） |
| P 6 ~ 8 | 特別寄稿 * 愛知県「河口堰」パブコメと専門委員会の対応（1）… 在間 正史弁護士 |
| P 9 | 投 稿 * 長良川河口堰開門めざして 12.10 シンポジウムの成功を…… 武藤 仁 氏 |
| P 10 ~ 11 | マスコミ情報（「水」問題に関する新聞記事スクラップ） |
| P 12 | 「イベント参加・裁判傍聴など 皆さまへお願い」 |

次回（第 13 回）口頭弁論のお知らせー

12 月 19 日（月）11 時～名古屋地裁・1 号法廷（開廷 30 分前から裁判所前で「事前集会」）
原告・意見陳述、人証申請、準備書面のやりとりなど 閉廷後に弁護士会館で「報告集会」

平成21年（行ウ）第49号公金支出差止請求事件

原告 小林収外91名

被告 愛知県知事外1名

意見陳述書

名古屋地方裁判所民事第9部 御中

平成23年10月19日

原告 山田 忠善

私は原告の1人で、知多半島のつけ根に位置し、名古屋市のパットタウンとしてもよく知られる大府市に住む山田忠善です。私は、ムダ遣いの導水路事業を中止し、貴重な公金は防災事業などの県民生活の向上に使っていただきたく陳述します。

3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震による世界最大級の東日本大震災が発生しました。大地震と大津波による死者は15813人、行方不明者は3971人。被災者数を見聞きするたびに、私の身体には押さえようのない震えがきます

今から52年前、1959年9月26日夜、死者・行方不明者が5千人を超えた伊勢湾台風をいや応なしに思い出すからです。当時中学2年生だった私が家族と暮らしていた港区土古住宅は胸まで浸水。一夜明けた名古屋市南部の避難所は水が引かない中、まさに地獄絵で、水死体が次々と運び込まれてきました……。この痛ましい惨状を教訓に、1964年に高さ6.5m・全長7.6kmの名古屋港を守る高潮防波堤が建設され、私たちも枕を高くして眠ることができるようになりました。

ところが、最近の調査結果によると、防波壁そのものが永年の自然沈下で最大2mも低下している。国土交通省は、大きな地震が起きると地盤が液状化し、さらに沈下するとコメントしています。しかし国の防災予算は限られ、補強工事实現のメドは立たず、万が一実現したとしても、愛知県と名古屋市もそれぞれ応分の負担を強いられる・・・などとマスコミは特集を組んで報じています。

情けないと言えば、東日本大震災の現地の実情です。被災地の方々が望む復旧・復興は、これからも安心して暮らし続けることです。未曾有の大震災から7ヶ月。震災復興は遅々として進まず、人が住めない「死の町」を作り出した苛酷な福島原発事故は何も片づいていません。

しかし、住民の生活を守ることを放棄する施策は許されません。日本の経済が苦しい今だからこそ、国民をさらに苦しめる増税政策ではなく、これまで聖域扱いだった公共事業の見直しに手を付けるべきと考えます。

具体的には、2011年度予算が約5兆円にのぼる公共事業予算について、公共性があるかどうか、緊急性があるかどうかを精査し、減額修正して復興財源に充てるべきです。

その対象として最適なものがダム事業であると私は考えます。

理由は 事業見直し中で現在凍結扱いにつき、予算移動の影響が最小限ですむ。

計画から完成まで数十年かかる事業のため、事業期間延長の影響が小さい。

予算執行に係わる技官や事業者、資材など、被災地のインフラ復旧へ移動できる。
など・・・ダム事業そのものの特性からです。

緊急性が求められる東日本大震災の復興費には、全国83ダム事業の2011年度予算2400億円を投入するレベルの大英断が求められています。その点で導水路事業は、住民監査請求に先立って所轄の土地水資源課と懇談したさい、建設理由を「徳山ダムができちゃったから」と発言されましたが、その程度のあまりにも必要性のない事業ですから、即刻中止して震災復興に役立てるべきです。

次に、私が住む大府市に話を移します。大府市は6月議会で水道料金小口径について2段階で合計20%の値上げを決定しました。水道料金の値上げは、市民のふところを直撃する厳しい話です。地元の市会議員の説明では、値上げ理由は、水道会計が2010年度末で8億5千万円の累積赤字となったことだそうです。

なぜ赤字が増えたのか。その理由の一つは、愛知県営水道からの水の購入費用（受水費）が、愛知県営水道が新規水源施設の費用を料金に転嫁させたため、2000年度と2002年度に値上げされたからです。

もう一つの理由は、収入の水道料金に直結する給水量が、大府市の予想を下回って、1998年以降横ばいで、2004年から2007年までは一時的に増加したものの、その後は再び横ばいで増加しないからです。今後は、有収率の向上により減少が見込まれています。

それに引き換え、卸元の愛知県営水道は、毎年45億円程の黒字ということを経営の市会議員の方からお聞きしました。また、徳山ダムからの導水路が建設されると、県水の卸売り単価は確実に値上がりすると付け加えられました。

黒字の要因はなにか、愛知県営水道は大府市等の市町に水源建設費用を転嫁して押しつけているからでしょう。大府市としては、もう導水路による値上げはお断りです。

一昨年に名古屋市が開催した導水路公開討論会の場で、富樫岐阜大学教授は「木曽川の水は工業用水も、農業用水も余っており、新たな水を引く必要はない。ましてや、徳山ダムからの導水路は必要ない」ことを分かりやすく説明されました。そうであるならば、大府市は他の市町と協力して、不要な導水路事業を止めさせて、愛知県から買う水道料金の引き下げに努力をすべきと考えます。

3・11東日本大震災と福島第一原発事故、さらには異常円高といった、厳しい政治・経済状況の下、多くの国民県民が困難に耐え苦闘している今こそ、愛知県知事と公営企業管理者が勇気を持って、ムダにムダを重ねる導水路事業の中止を決断されるよう私は願っています。最後に裁判所には、多くの県民の思いを汲み取り、ぜひとも公平、公正で賢明な判断を下して下さるよう心から要望し、陳述を終えます。

投稿

継続と団結こそ力、石木ダムはいらない！全国集会

徳山ダムの建設中止を求める会・事務局長 近藤ゆり子

10月22日(土)の水源連総会、23日(日)の「本当に必要？石木ダムはいらない！全国集会」、24日(月)の長崎県への申し入れに参加するため、長崎県川棚町に行ってきた。

「山里にダムがくる」(山と溪谷社 著:管 聖子 / 写真:大西 暢夫)の中の「命をかけた闘いは続く・石木ダム」。団結小屋で見張りを続けるおばあちゃん達を撮った大西暢夫さんの写真をみて、一度現地に行ってみたいと思っていた。

水源連総会後の懇親会は、地元の川原(こうばる)公民館で懇親会。地区の女性達の手作り料理がいっぱい並んだ。

川原公民館の中にはたくさんの「檄」などが掲げられている。1982年の機動隊を導入しての強制測量に真っ向から立ち向かって撃退した「石木ダム絶対反対同盟」の勇名を窺わせる。宴たけなわで、故・山下弘文さんが作詞した「石木ダム絶対反対の唄」を皆で大合唱。最後の「エイエイオー！」は大いに盛り上がった。



23日(日)午前中は石木ダム予定地現地(=川原地区)の見学。大西暢夫さんの写真にあった団結小屋は健在。平日の地元のお年寄りによる見張りも続いている。のどかな里山の風景の中のいたる所に石木ダム反対の看板がある。日常の中に「ダム反対」が息づいている。



午後、佐世保市で「本当に必要？石木ダムはいらない！全国集会」。会場には約500人の参加者の熱気があふれた。地元地権者を代表して30歳の若者が発言。「毎日が(肩肘を張った)反対運動に明け暮れているのではなく、普通の暮

らしがある」「このまま住み続けたいだけ」。その場所に「住み続けたい」故郷！それをそこに暮らす住民からを奪うどんな大義もありはしない。

普通の暮らしとともにある現地の「ダム絶対反対」の固い意志、世代を超えて受け継がれる闘いが、今、都市部の人をも動かしつつある。現地の人々から字義通り「元気を貰」った。

「ダム中止が決まったら、看板を外して花を植えたい」、その願いは必ず実現すると確信した。



「導水路」住民訴訟・裁判の屋台骨を支える

原告弁護団メンバー 4 氏のご紹介（下）

本件裁判も提訴から 2 年半、人証申請・準備書面のやり取りといよいよ佳境に突入しました！先回に引き続き、文字通り“手弁当”で獅子奮迅の法廷闘争を担っていただく 4 人の弁護士さんのプロフィール（続編）を紹介します。下記の設問項目について、本人自ら筆をとってのご回答です。

< 事 務 局 か ら の 設 問 項 目 >

- …… お名前（ふりがな）と所属事務所
- …… 出身地はどちらですか？
- …… 弁護士になられて何年ですか？（なぜ、このお仕事を選ばれたのですか？）
- …… 導水路裁判に関わるきっかけは？（この裁判を担当されての感想などありましたら）
- …… 趣味などご自由にお書き下さい。



高森 裕司 弁護士（たかもり ひろし）

名古屋南部法律事務所・平針事務所

名古屋市の北区，味鋤（あじまと読みます）出身です。

12 年になります。これといった動機はありませんが，上下関係のない仕事をしたかったからでしょうか。

12 年前の弁護士登録直後，まだ事務所に出ていないのに，某弁護士に騙されて（？）連れてこられたのが徳山ダムの弁護団会議で，そのまま弁護団に入りました。徳山ダム訴訟は私の弁護士としての原点だと思っています。「徳山ダムができちゃったから」作るという導水路を阻止し，徳山ダム訴訟の仇討ちをしたいと思ったからです。

妻と二人でオートキャンプに出掛けたり，年に 1 度石垣島でシュノーケリングをして気分転換をしています。毎晩飲む安いワインも欠かせません。

.....



小島 智史 弁護士（こじま さとし）

名古屋 E & J 法律事務所

愛知県東郷町です。ただ，親が転勤族のため，4 歳以降色々な所へ転々としています。

4 年目になります。大学時代に法律相談サークルに所属して，法律を使って人が抱えている様々な問題の解決に取り組むことに興味を持ったのが一つのきっかけです。また，環境事件については，京都に住んでいた頃に市内の駅ビルやマンション開発問題が持ち上がっていて，その問題について見聞きするうちに興味を持ちました。

濱瀧先生と同じく，設楽ダム訴訟への取り組みがきっかけになり，こちらの弁護団に加わらせていただきました。

テニスをやっています。週 1 でスクールに通っていますが，最近行けないことも多いのが悩みです。

パブリックコメントと専門委員会の対応（その１）

「徳山ダム導水路費用負担金支出差止訴訟」弁護団長 在間 正史

はじめに

大村知事と河村市長の選挙共同マニフェストで、長良川河口堰の開門調査が掲げられたことから、長良川河口堰検証プロジェクトチーム（PT、小島敏郎座長始め委員５名）が設けられ、PTに専門的事項について報告する専門委員会（今本博健共同座長始め委員８名）が設置されました。専門委員会は、７月１４日に第１回委員会を開催して、８月３０日～９月１日の集中審議を含めて９回の審議を経て、９月２４日に報告書案をとりまとめました。

報告書案は１０月２３日までパブリックコメントに付されて、１０月２７日の第１０回委員会で、資料２「報告書（案）」に関する意見の概要と専門委員会の考え方において頁順に整理されて、意見に対する委員会の考え方が説明されて審議されました。審議に基づき必要な修正をして、１１月７日の第１１回委員会で報告書が完成します。

PTと専門委員会は、審議と資料の公開はもちろん、審議において傍聴者意見の時間をとり、筆者のような委員でない無名の者も意見を述べる機会が与えられました。また、委員会の資料はもちろん報告書も、全て委員が自ら記述して作成されました。文字通り委員会自身の報告書です。

このような審議機関は、愛知県の歴史になかったことで、歴史的なことであり、この種の審議機関の今後のあるべき姿を示しています。

報告書案には会員の皆様も含めて４２２件の意見が寄せられました。筆者も合計６回意見を出し修正案を提案しました。２回に分けて、重要な論点についての意見（皆様の意見と被ります）を報告し、河口堰開門の必要性和河口堰問題を明らかにいたします。

１ 河口堰開門調査を何故行うのか（開門調査の必要性）・・・３頁 110、111

【報告書案の記載】

「２０１１年２月６日に行われた愛知県知事選挙及び名古屋市長選挙で当選した大村秀章知事及び河村たかし市長は、選挙時の共同マニフェストに「長良川河口堰の開門調査」を掲げ

河口堰調査

専門委 住民意見めぐり協議

秋から春の開門提案

長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査の可否を検討する愛知県の専門委員会は二十七日、専門委がまとめた報告書に対する住民の意見について意見交換し、委員らが開門の開始時期を農業用水が取水しない秋～春にすることを提案した。十一月七日に最終の会合を開き、意見を踏まえて報告書を修正し、上部組織の有識者会議に提出する。

専門委は九月下旬に、間、意見を公募。県内五年以上の開門調査を求め、報告書をまとめた。四百二十項目の意見が求め、直後から一カ月寄せられた。

開門調査の時期については「堰害防止のため、長良川用水が取水しない十月～三月末の間、意見を公募。県内五年以上の開門調査を求め、報告書をまとめた。四百二十項目の意見が求め、直後から一カ月寄せられた。

早い時期に始めるべきだ」との意見が寄せられ、委員が「沿うべきだ」と提案した。

住民からは、ほかに「専門委の議論は、開門の結論ありきの茶番劇だ」「堰害が起きたら、誰が責任を取るのか」との意見があった。

10/28・中日新聞・朝刊

また、開門に慎重だった専門委の藤田裕一郎・岐阜大学教授（河川工学）が多忙を理由に、九月末までだった契約期間を延長せず辞任したことを、事務局側が報告した。

た。」「今後の最適な運用のあり方を提言することを目指した。」(3頁)

【報告書案の不十分性】

報告書案の上記記述は、報告書の冒頭において、長良川河口堰の開門調査を何故行うかの説明として不十分です。

長良川 5.4 km地点に建設された河口堰は、建設前から、それまであった水、土砂、生物の川と海の連続性を同地点で遮断し、30 kmから 40 km近くまであった水系としての汽水域と感潮域およびその生態系を失わせること、その下での生物多様性を失わせることが危惧されていました。実際、1995 年に河口堰ゲートが閉じられてから、長良川の汽水・感潮域と生態系および生物多様性が劣化していることが指摘されています。

上記共同マニフェストは、「『10 大環境政策』で環境首都アイチ・ナゴヤを」として、2010 COP10 を継承、木曽川水系連絡導水路事業の見直し、河川の自然再生(集水域管理をベースに、河川の自然再生をすすめる事業に取り組む)とともに、長良川河口堰の開門調査を掲げています。これらがマニフェストになったのは次の理由からです。

選挙前年の 2010 年 10 月、名古屋市で第 10 回生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催され、戦略目標 B(生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する)と戦略目標 C(生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善する)について、2011 年～2050 年目標が愛知ターゲットとして決議されました。河口堰の開門は、議長国の地元として、愛知ターゲットを実行し、建設前から危惧されていた長良川の汽水・感潮域を中心とする生態系および生物多様性の劣化状態を改善しようというものです。

【報告書案の修正案】

「2011 年 2 月 6 日に行われた愛知県知事選挙及び名古屋市長選挙で当選した大村秀章知事及び河村たかし市長は、選挙時の共同マニフェストに「『10 大環境政策』で環境首都アイチ・ナゴヤを」として、「長良川河口堰の開門調査」を掲げた。

これは、前年の 2010 年に名古屋市で開催された第 10 回生物多様性条約締約国会議(COP10)で、愛知ターゲット(2011 年～2050 年目標)として、戦略目標 B(生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する)と戦略目標 C(生態系、種及び遺伝子の多様性を守ることにより、生物多様性の状況を改善する)についての目標が決議されたが、1995 年に河口堰ゲートが閉じられてから、建設前から危惧されていた長良川の汽水・感潮域を中心とする生態系および生物多様性の変化の発生が指摘されており、議長国の地元として愛知ターゲットを積極的に実行し、このような状態を改善しようというものである。」

【専門委員会の考え方(回答)と評価】

「趣旨に沿って、「生物多様性」の記述を盛り込みます。」

報告書として先ず最初に述べられるべき何故河口堰の開門調査をするかについて、河口堰によって失われた長良川の生物多様性を回復しなければならないとの理由が追加される見通しがありました。

2 どのように開門調査をするか(開門調査方法)・・・67 頁 9

【報告書案の記載】

「800 m³/sec 以上の出水が生じ、開門され、・・・開門調査を開始する。開門は、塩害防止の観点から、以下の 3 つの条件を満たすことを条件に継続する。

長良川用水への塩水流入を防ぐため、河川水の塩化物イオン濃度が、自動水質観測装置(トウカイくん)のある 22.6km で 20mg/L 以下

長良川用水への塩水流入を防ぐため、用水の電気伝導度が 0.3mS/cm 以下

地下水による農地の塩害を防ぐため、河川水の塩化物イオン濃度が、15km 付近で 5,000mg/L 以下（マウンドで塩水遡上が止まっていた頃と同じ濃度）」（84 頁）

【報告書案に対する疑問】

(1) 開門調査の開始時期について

長良川用水は水稻かんがい期（4 月 1 日から 9 月 30 日）の水利権であり、10 月 1 日から翌年 3 月 31 日はかんがい利用がなく塩害発生の可能性がないので、いつでも堰の開門が可能です。この期間を積極的に利用して、開門調査を開始すべきです。

(2) の条件について

塩化物イオン濃度が東海大橋 22.6km で 20mg/L 以下という条件は、かんがい用水の塩水化による塩害防止の点からは必要のない過剰な条件です。水稻の塩害は塩分による生育障害であり、塩化物イオン濃度 500～700 mg/L（中央値 600 mg/L）のかんがい水の下において栽培されたときに発生するとされています（千葉県農業試験場公表値、農林省農地局『農業と公害』地球出版）。

(3) について

地下水による農地の塩害を防ぐために、河川水の塩化物イオン濃度の条件を設ける必要性はありません。報告書案 81 頁で述べているように、漏水対策工として実施された承水路および暗渠排水管により耕作層への塩水の侵入は防止されているからです。

(4) 他の条件を含めて報告書案の条件では、開門調査を提案しながら、調査はできないことになりかねません。是非とも修正が必要です。

【報告書案の修正案】

B 案（A 案は、閉門条件の測定地点が長良川用水の幹線水路で、違いはこれだけ）

「長良川用水がかんがい用水の取水をしない 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日のできるだけ早い時から開門して調査を開始する。上記期間においては、長良川の塩水遡上の状態の観測、長良川用水の新大江および勝賀取水口、さらに大江東幹線水路、大江中幹線水路および勝賀幹線水路での塩化物イオン濃度の連続観測を優先して行う。

開門した後は、塩害防止の観点から、かんがい期に、河川水の塩化物イオン濃度が、自動水質観測装置（トウカイくん）のある東海大橋 22.6km で、10 日間平均値において 500 mg/L（塩分濃度の観測が毎時なされないときは、長良川の河口堰運用前を含むこれまでの塩化物イオン濃度と電気伝導度の関係を調べたうえ、これによって求められた塩化物イオン濃度 500 mg/L に相当する電気伝導度値）を上回ったときは閉門し、これを下回ったときに開門する。」

【専門委員会の考え方（回答）と評価】

「ご指摘の内容の方が合理的と考え、以下（B 案）に差し替える提案をします。」
適切な開門調査がされる見通しができました。ありがとうございます。

～事務局よりお知らせ～ 過去に開催の「検証」PT 会議・専門委員会をよく知りたい方へ
会議資料・議事録は、「長良川河口堰検証について」（愛知県ホームページ）
ビデオ録画については、「長良川河口堰検証アーカイブ by 環境テレビ・中部」
を、それぞれインターネット上で検索、ご利用下さい。

投稿 長良川河口堰開門めざして 12.10 シンポジウムの成功を

長良川市民学習会・事務局長 武藤 仁

愛知県の「長良川河口堰検証」が進んでいます。「堰の開門」を願う私たちはこの動きを歓迎します。

○ ○ ○
昨年、愛知・名古屋で生物多様性条約締約国会議COP10が開催されました。この地域を含め、各地の市民が多様な形で参加し、成功をおさめました。この成功があったからこそ、大村氏は知事選挙のマニフェストに「長良川河口堰開門調査」を入れました。

河口堰を開門し、生態系回復への第一歩を踏み出すことは、「あいちターゲット」が決議された開催地である名古屋・愛知の市民団体の責務です。

○ ○
そこで、私たち「導水路はいらない！愛知の会」、「長良川市民学習会」、「生命流域ネットワーク」、「国連生物多様性の10年市民ネットワーク」は、「長良川河口堰開門と生物多様性」をテーマにした大規模なシンポジウムを名古屋で開催することを呼びかけました。

タイトルは「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」。開催日は12月10日(土)。会場は定員780名の伏見ライフプラザ鯉城ホールという大会場です。カヌーイストの野田知佑さんも出演していただけることになりました。

○ ○
第1回実行委員会は10月6日に開催され協賛団体を大きく増やし運動を広げることを確認。11月に入り50団体を超える団体の協賛を得ています。実行委員会では100団体をめざし、さらに幅広い運動に高めます。

10月29日朝日新聞夕刊はトップに「生態系保護 熱どこに」と題してCOP10熱が冷える中で生物多様性は？と問題提起。そんな中で私たちの取り組みを注目する記事になっていました。

長良川は、生態系が大きく損なわれてしまいました。影響は、河口部のみならず、川の上流にも伊勢湾にも及んでいます。長良川河口堰は「開発」の名の下に生物多様性を顧みなかった前世紀の負の遺産です。次世代に残してはいけません。

○ ○
「河口堰の検証」は河口堰開門への絶好のチャンス。何としてもこの12.10シンポジウムを大成功させ「検証」から「開門」実現につなげたいと思います。

市民団体「裾野広げる好機」



COP10では、市民団体も会議の「当事者」として脚光を浴びたが、同じように関心の低下に悩む。「COP10の記憶すら薄れ始めている」「愛知ターゲットを理解しているのは関係者はかりだ」。21の市民団体が集まり、10日に名古屋市中区で開かれた

「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委の初会合＝10月6日、名古屋市中区

「国連生物多様性の10年市民ネットワーク」の全員総会では、厳しい現状を訴える発言が相次いだ。この日も、期待していた大手企業からの助成金50万円の選挙に漏れたことが報告された。ネットの「ツイッター」や「フェイスブック」を使った発信も試みているが、手応えはない。事務局の村瀬俊幸さん(57)は「参加が広がらなければ活動も進まず、負のスパイラル。市民参加の入り口をどう作るかに全てがかかっている」と話す。その一方で、新たな動きも出つつある。6日に設立された「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委員会には、COP10をきっかけに知り

2011.10/29 朝日新聞夕刊

合った約20人で結成された。愛知県が長良川河口堰を開門した場合の検証を「ずっと私たちの声は届かなくなる」と受け、市民の関心を高める狙いで作られた。実行委は、カヌーイストで作家の野田知佑さんらを招き、12月に長良川の生態系や生物多様性を考えるシンポジウムを開く。あるメンバーは「河口堰の問題は今始まったわけじゃない。COP10で多様性や環境に関心が集まった今なら、つながりを広げられるかもしれない」と話す。(井上未雪、長谷川潤)

河口堰の適正運用決議

県議会 31議案を可決、閉会

日、本会議を再開し、東日本大震災を踏まえた緊急対策や道路公社解散に伴う支援などを盛り込んだ「7億7,000万円の本年度一般会計補正予算案」を25議案と、議員発議された長良川河口堰(せき)の建設目的に即した適正運用を求める決議案など6議案の計31議案を可決開会した。知事提出で可決されたのは予算3件、条例7件、契約4件、人事1件、その他10件。一般会計補正は震災を受けた東海・東南海・南海の3連動地震による被害想定調査や近隣の

條例は津市の統率・消防修施設岐阜マリ
ンボウ・ツェンターを
廃止する条例など。人
事は任期満了を迎える
人事委員会委員の提議
で日本耐震工業社長
(64)大垣市にの再任
に同意した。

河口堰の決壊は長期
の関門調査を検討する
愛知県などへの動きを
近隣地域で先人の努力
と過去の経緯をないが
しにこにすることを意見が見
受けられるのは非常に
残念」ととげの制、「塩

害を防ぐ潮止堰」と
の建設目的に合った適
正な運用を求める内
容。最大党派自民党の
クラブの議員が提案
し、賛成多数で可決さ
れた。

可決した意見書は「
一田高の是正と経済再
生に向けた施策の推進
を求める意見書」など
5件。議題は「私立高
校に対する県費補助金
の増額についての請
願」など2件を採択し

(小森直人)

（小森直人）

「長期の開門調査必要」
愛知県
検証委
岐阜市で市民説明会

<p>長岡川河堰(せき) 三重県桑名市での開 通直後の是非を検討し たいという発案の検証等 委員会では日夜、最 大限の努力の故郷市で</p>	<p>明会を開設し、長期の 調査研究が必要とする 調査研究費の内容を解説 した。</p>	<p>民学協会が主催し、専 門家の小島敏郎、本 博雄と座長が説明し た。河口堰問題に関心 の高い市民ら約80人が 耳を傾けた。</p>	<p>現在、パブリックコ メント(意見公募)を 行っている報告書案に ついて説明した上で、</p>
--	--	---	---

10/19
・岐阜新聞・朝刊

「要らない水には問題はないが、要る水は金を買わなければならない。金が必要ではないか」と考えを述べた。

今本さんは国や水資源機構が過去に行った河口堰の検証が不十分

愛知県の長良川河口堰検証専門委員会がまとめた報告書案について解説した説明会＝岐阜市橋本町、ハートフルスクエア-G



良い未来のために知恵を出していきなさいと語った参加者からは環境回復に向けて開門調査を強く望む声、農業用水の実態調査を求める意見などが上がった。

(西山歩)

長良川河口堰 論争再び過熱

運開始から16年が経過した長良川河口堰（せき）は三重県桑名市市川町の開闢調査会に是非を審議する調査員の有識者會議が今秋中にも、長期の調査実施を大村秀章知県を相手に提言する見通しが益々明かされた。開闢を求め続ける環境団体と漁業者に対し、国や事業者の水資源機構は塩害への懸念を理由に常時の開闢を拒み、岐阜県では関係自治体もこれに追従してきた。大村知事の要請を受けた有識者會議の提言は平行線の河口堰論争に二石を投じる。長良川全長の約9割が流れる岐阜県にとって人ごとではななく、実現への期待と塩害発生を不安視する声がかさねている。（西山歩）

てきた。60年にわたって、長良川に明かりが昇る。大橋亮一さんは感慨深げ。6月には沼津青年会議所の招きで、銅柱を断たし。おかげ（無）川になった。河口堰が「流速がなくなり洪水時だけ一気に流れぬから、川底は砂ばかり。鮎の妻あか（簗）わねい」と、卵を産む場所もない。今、稚年の思いが初めて、行政側に正面から受け止められた気がして

いる。「河口堰を開かず、荒川は洪水を持つてゐる。ダムのない川はそう多くない。日本の半でして長良川に、を助けてやつてほしい」と切に願ふ。

河口堰反対の立場をとる岐阜大学地域科学部の宮崎幸一教授は有識者会議設置そのものを「画期的」と評している。「これまで河口堰について、国と関係者が知事等立場でティスカッシーンズ」の場がなかった。結論

運用開始から16年がたった長良川河口堰。愛知県の有識者会議を発端として、開門をめぐる論争は再び火のつく様相をみせている。三重県桑名市

フォーカス
ぎふ
Focus Gifu

り切り下げられており、塩水がマウンドで止まるとは言い切れない」と警鐘を鳴らす。

にはさらに議論が必要だが、傍聴者や市民も意見を
出す機会が設けられ、オ
ープンに議論できるよ
うになったと大きくこ
ろす。

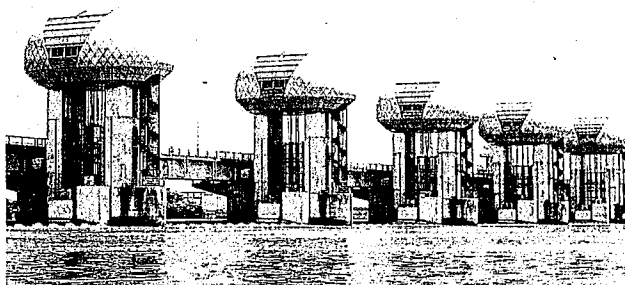
ただ、有識者会議が開
調査を提言しても、実現
のハードルは高い。報告
案では関係者による協議
関の設置を提案するが、
査実施を前提に置いたと
とれる議論の進め方に、
三重県の反応は冷やや
。海津市の松永浩彦市長
は「二つの市や県が突出

長年の念願
塩害に懸念



調査に関する愛知県の有識者会議
大村

■ 開闢調査に関する愛知県の機関と企業 大村
 愛知県知事知照紙、河村利次(名古屋市長)は、
 2月の遠征で長良川河川堰の開闢調査を共
 同マニフェストに掲げた。有識者会議は6
 月発足。下部組織の専門委員会(水利、塩害、環境、
 水質)。この分野(河川堰)の効果に影響。開門で予
 想される変化を検証して。水、専門家が主
 めた報告書では「開闢調査が『環境復元』になら
 る可能性が極めて高い」として、5年以上の実施
 を提案。塩分の浸入が想定される秋水分は、既存
 の水頭でほぼ代替可能とする。現在、パブリック
 コミットを実施している。



「一方、塩害が死活問題として迫るべき點については農業者は強く反発する。堰の設置者は後藤藩に於ける横江富房の後藤昌宏社長は「河口堰があるから安心して農業ができる。開門によつて塩害が起きない、鹽業に必要な水が制限されないか心配。塩害が起きた場合、誰が補償してくれるのか」と憤る。報告書では開門時の塩水上昇（せいじょう）の程度は「一分から二分の其情とする。河口堰建設以前、塩水のせき止めに効果があったとされるマントウ土の堆積部が近年再び形成され、見上の可能性は低いとの意見もあるが、専門委員を務める岐阜大学の藤田裕一郎流域圏科学研究センター長は「河道は堰建設前よりかなり求められる。」

関係者に対する説明をしつつも「批判したい」と批判を重視し、適切な運用を求むる決断を採択した。

古田肇知事は「他県の報告書案に基づいてコメントはしない」と静観の構えをみせる。しかし、岐阜県では昨年、長良川を舞台にした大会（全国豊かな海づくり大会）が開催かれ、来年は「清流国」でも実施される。「清流スローガン」の一つ。そのシボルでもある長良川の行方未定な未来を握る河口堰問題が再燃しつつある今、堰には当然事業者意識を持ち、積極的に議論の場を創出する姿勢が必要とされる。

「開門調査」愛知県に提言見通しで波紋

環境団体
漁業者

岐阜県者
岐農

「清流」の未来へ熟議不可欠

イベント参加・裁判傍聴など 皆さまへお願い

「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委員会主催
12/10 シンポジウム「長良川河口堰開門と生物多様性」

<問合わせ先：「長良川市民学習会」事務局（武藤宅 090-1284-1298）>



長良川河口堰のゲートが閉じて16年、長良川の生態系は大きく傷つき、伊勢湾にも悪影響を及ぼしています。

他方、昨年COP10が開催されたこの地愛知県では現在、河口堰検証が行われています。この方向を歓迎し、開門の早期実現を願う人々の叡智で本「シンポジウム」（チラシ参照）が開催されます。

*日 程 12月10日（土）午後1時30分～5時30分

*参加費 入場無料（資料代として500円カンパをお願いします）

苛酷な原発震災は人災 「石橋克彦講演会・実行委員会」主催
12/11 講演会「若狭原発震災前夜の私たち」

<問合わせ先：「石橋 克彦 講演会・実行委員会」事務局（西宅 052-808-3241）>

日本の原発は
「地震付き原発」



講師の石橋克彦・神戸大学名誉教授（地震学者）は1976年、東海地震説のもとになった「駿河湾地震説」を発表。次いで1997年、大地震によって原発がメルトダウンを起こし、地震災害と放射能汚染の被害が複合的に絡み合う事故を「原発震災」と名付けて警鐘を鳴らしましたが、現実となりました。

今回は、原発14基が乱立する若狭湾周辺の危険なお話（チラシ参照）です。

*日 程 12月11日（日）午後1時30分～4時30分

*参加費 入場無料（資料代として500円カンパをお願いします）

「設楽ダム建設中止を求める会」からの参加要請

<問合わせ先 「設楽ダム建設中止を求める会」事務局（奥宮宅 ・Fax0532-54-7305）>

12/13 「設楽ダム」控訴審・第5回口頭弁論



「設楽ダム」は現在、検証・凍結扱いであるにも拘わらず、現地設楽町では、町長が懇意の土建屋によるダム関連工事が真っ盛りです。

他方、控訴審・第4回口頭弁論では、原告側準備書面に対する被告（愛知県）側の反論は予定期日までに出来ませんでした。また、控訴人の鈴木さんが、（国土問題研究会が大規模な岩盤崩壊や水漏れを引き起こしかねないと報告の）ダム建設予定地の視察を裁判長に求める意見陳述を行いました。

*12/13（火）午後1時30分開廷、名古屋・第1号大法廷

国土問題研究会「ダム建設予定地」調査結果報告会

「設楽の会」ではカンパを募り、「国土問題研究会」の専門家に協力をいただいて、ダム建設予定地（横坑を含む）および周辺の水没地区の調査を行いました。報告会は次のとおりです。

*11/19（土）午後2時～4時、豊橋市民文化会館・第4会議室

*11/20（日）午後1時～3時、田口特産物振興センター・多目的ホール

*12/13（火）午後6時30分～ウインクあいち（旧中小企業会館）1005会議室